

住まい・まちづくりの基本理念

<住まい・まちづくりの基本理念>

県民が主役 魅力ある風土と豊かな暮らしを育む「住まいの奈良」の実現

- 県民が主役** 地域に愛着を持ち、地域を最も良く知る県民が主体となって、魅力ある風土の形成や豊かな暮らしの実現を目指します。県民が主役の住まい・まちづくりを進めるため、県や市町村、民間事業者、NPOなどと連携・協働します。
- 魅力ある風土の形成** 内外に誇る歴史・文化、自然環境などの資産を大切に守り、ふれあい、さらに磨きをかけ、県民がより愛着や誇りを感じられる魅力ある風土を育み、次世代に伝えます。
- 豊かな暮らしの実現** 奈良県では昔から人々が定住し、長年にわたり、地域の特性を活かした多様な暮らしが営まれてきました。少子・高齢化、人口減少社会が本格化する中で、県民一人ひとりが思い描く理想の生活像（＝豊かな暮らし）が実現できる環境づくりを進めます。



住まい・まちづくりの基本目標と施策の基本的方向

基本目標1 いきいきした地域社会を次世代に伝える ー活力あるコミュニティの形成ー

活力ある豊かなコミュニティを次世代に継承するため、県民一人ひとりが地域社会の一員という自覚と責任を持ち、地域活動の担い手となり、地域における交流・活動を活性化し、質の高いコミュニティを形成・維持します。

施策の基本的方向

- ・ 地域の運営・管理活動の促進
- ・ 歩いて暮らせるまちづくりの推進



基本目標の達成状況を示す成果指標

住環境（コミュニティの関わり）に対する満足率
【H15：70.2% → H27：増加】
住環境（日常の買い物・医療・文化施設の利便）に対する満足率
【H15：57.7% → H27：増加】

基本目標2 個性豊かで安全な地域の中で住もう ー良好な居住環境の形成ー

地域の自然、歴史、文化等の特性を生かしながら、居住環境の安全性・快適性の向上を図り、県民が誇りと愛着を持つことができる居住環境を形成します。

施策の基本的方向

- ・ 地域の個性を活かした住環境の創出
- ・ 安全で良質な市街地環境の整備

基本目標の達成状況を示す成果指標

永住意向（「なら未来目標アンケート」）
【H17：70.7% → H27：増加】
住環境（火災・地震等の安全）に対する満足率
【H15：56.0% → H27：増加】

基本目標3 質の高い住空間で安心・快適に住もう ー良質な住まいの形成ー

住宅の品質、性能の維持・向上を図り、現在及び将来の県民の住生活の基盤となる住宅ストックの形成と活用を進めます。

施策の基本的方向

- ・ 住宅の安全性・快適性の確保
- ・ 適切な維持管理等による住まいの長寿命化の促進
- ・ 環境に配慮した住宅の供給促進



耐震診断・耐震改修パンフレット（建築課）

基本目標の達成状況を示す成果指標

住宅ストックの耐震化率
【H15：71.5% → H27：90%】
高齢者（65歳以上の者）の居住する住宅の一定のバリアフリー化率
【H15：27.6% → H27：80%】
住宅の利活用期間
【H15：26.4年 → H27：約40年】

基本目標4 誰もが安心して住もう ー安定した暮らしを守る住まいの形成ー

市場において自力では適正な居住水準の住宅を確保することが困難な住宅困窮者及び災害時の被災者等を含めた全ての県民が、健康で文化的な住生活を営めるよう、公的賃貸住宅と民間賃貸住宅による居住安定の確保を図ります。

施策の基本的方向

- ・ 住宅困窮者の居住安定確保
- ・ 安心して暮らせる賃貸住宅の供給
- ・ 災害発生に備えた体制づくり



建替えを行った公営住宅（県営住宅小泉団地）



応急危険度判定実地訓練の様子

基本目標の達成状況を示す成果指標

最低居住水準未満世帯率
【H15：2.4% → 早期に解消】
公営住宅の供給目標量※
※県営住宅と市町村営住宅の建替戸数、空家募集戸数の合計
H18～H27年度 約7,250戸

基本目標5 ニーズに合った住まい・暮らし方を選ぶ ー住まい・まちづくりを支える市場や産業の環境整備ー

県民それぞれのライフスタイルやライフステージに合わせて、住宅・住環境を適切に選択できるような市場環境を整備し、情報を提供します。

施策の基本的方向

- ・ 住情報の提供の促進
- ・ 中古住宅の流通促進
- ・ 地域の住宅産業の育成・活性化



絵だより 2006より

基本目標の達成状況を示す成果指標

新築住宅の住宅性能表示実施率
【H17：15.8% → H27：60%】
中古住宅の流通シェア
【H15：19.4% → H27：24%】